

(Special Talk Session)

都会を経験したからわかる 八女の価値

地元ではなく八女を選んだ若手2人と、東京から八女に戻り市政に携わる市長。「なんで八女?」「暮らしてみよう?」——そんな素朴な疑問からスタートしたリアルな対談。“働く場所”としての八女の魅力、地元で暮らす面白さが見えてきました。

八女市長 × 若手移住者

「仕事」と「人」

八女で可能性に出会った



Q. どうして八女に住むことになったのですか？

自分に合った環境で、やりたいことに向き合える場所を選んだ。

簗原市長 福岡で生まれて、幼少期に星野村で過ごした経験が、今の自分の原点になっています。合併前の星野村で村長になるのがひとつの夢だったので、2024年6月に八女に戻って、11月から市長を務めています。前職の国家公務員の仕事もやりがいにはありましたが、やはり自分自身が早く八女に戻りたい、そして何より直接八女市の発展に貢献したい、と思うようになりました。

家の近くのバイト先が、まさかの人生の転機に。

野嶋さん 実家の近くでアルバイトを探していて、求人誌で一番上に出てきたのが今の会社です。お茶に興味があったわけではなかったのですが、八女茶の魅力にハマって4年間続けました。接客を通して八女茶のことを伝えるうちに、自分でももっと学びたくなくて、生産や販売の

現場にも関わるように。そのまま就職して、本店がある八女で初めての一人暮らしをはじめました。

“どこで”より“誰と”働くかが大事だった。

宮崎さん 転職のとき、働く場所にこだわりはなかったんですが、たまたま最初に面接を受けたのが今の会社でした。そのときに出会った社長の熱い想いに惹かれました。それまでは“社会の歯車”として、自分に与えられた役割に全力を尽くせたら良いかなと思っていたんですが、「この人の下で働いたら面白いことができそう」と感じて入社を決めました。

簗原市長 おふたりとも“八女に住みたい”っていうより、“いい会社が八女にあった”という流れで来ているのが印象的ですね。八女への移住促進を考えるうえで、主なターゲットは若い世代——仕事が生活の中心になる世代。その世代を振り向かせるためにも“東京や大阪、福岡市内に行かなくても魅力的な仕事がある”と知ってもらうことの重要性をあらためて感じました。この冊子を通じて、八女にはそん

な会社がたくさんあることを伝えていきたいです。

Q. 八女に詳しくない状態からの引っ越しでしたが、住んでみていかがですか？

野嶋さん 夕日の大きさと綺麗さにすごくびっくりしました。福岡市内だとマンションの陰に隠れて大きくは見えないんです。田んぼに反射してキラキラ光る風景もとても綺麗で感動しました。

宮崎さん 帰り道の夕日もですけど、通勤中にもふと気持ちが落ち着くような場所があって、いいなって思っています。まちに傾斜があるので見晴らしもいいし、都会すぎず田舎すぎず、ちょうどいい暮らしやすさがあります。あと、自分は電車通勤が苦手だったので、今みたいに自由に移動できる生活は良いですね。



対談参加者

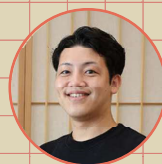


販売スタッフ

野嶋 莉奈さん 25

株式会社 牛島製茶 …… p41

のじま・りな | 2000年生まれ、福岡県福岡市出身。株式会社 牛島製茶に勤務。アルバイトでの八女茶との出会いをきっかけに八女茶の魅力を伝える今の仕事に尽力中。



未来推進室 室長

宮崎 悠輔さん 34

株式会社 アズマ …… p18

みやざき・ゆうすけ | 1991年生まれ、佐賀県武雄市出身。株式会社 アズマ、やめスマ研究所に勤務。全国を飛び回る仕事から「人」に惹かれ八女へ。現在は八女の未来を考えるまちづくりの中心メンバー。

Q. 八女の不便なところって？

交通手段、夜の暗さ、公園不足、市民が感じる課題



野嶋さん 公共交通機関、特にバスが少ないので、遊びに行くときはどうしても車を使わないといけません。誰かに迎えに来てもらったり、自分が迎えに行ったりすることもあるって、やっぱり不便さを感じます。星がきれいに見えるのはすごくいいところだと思うんですけど、街灯が少なくて夜は本当に暗くて、ちょっと怖いですね（笑）

宮崎さん そうですね。夜ってこんなに暗いんだなと思いました。僕は福岡に住んでいたとき、周りに運動公園があったので、散歩やランニングは明るい場所ですみました。でも八女にはそういう場所がないからか、夜に暗い格好で走ったり歩いたりしている人も多くて、結構危ないです。運動できる場所がもっと増えるといいなと思います。

簗原市長 八女でも、子どもが遊べたり、体を動かせる場所のニーズはすごく高いです。八女は面積は広いんですが、大半が山で中心部も水路や建物が多く、広い土地は意外と少ないんです。だからこそ、公園や運動できる場所をどう

整えるかは大事な課題ですね。実際、宮野公園やたちはな水辺公園、ほたと石橋の里公園など、少し中心から離れたところにもいい公園があります。以前、広報で市内の公園一覧を発信しましたが、特に合併した町の公園は市民でも知らない方がまだ多いので、もっと知ってもらえるよう情報発信も強化していきたいと思っています。

Q. 八女市に要望はありますか？

せっかく来たのに行先に困る？八女のインバウンド事情

野嶋さん 最近、仕事で海外の方の対応が多く、工場見学に来られた方が「このあとどこに行けばいいか」と悩まれることがあります。こうしたインバウンド向けの対応はお考えですか？

簗原市長 確かに、せっかく八女に来てでも行く場所が分からないのは大きな課題です。スマホで調べる人が多いので、英語対応を含めたデジタルでの案内を充実させたいと思っています。特に抹茶は外国の方にも人気なので、工場見学や抹茶づくり体験など“ここでしかできない体験”をセットで提供できる仕組みを考えています。そのためにも、地元の事業者さんと協力して取り組んでいきたいですね。

おいしい地元のご飯屋さんを応援したい

宮崎さん 八女って居酒屋のチェーン店がほとんど인데요。だからこそ地元のお店が頑張っていて、ふらっと入った店でも本当においしい。こうしたお店が続けていけるように仕組みづくりをしてもらえるとありがたいです。



簗原市長 八女のお店は、近隣からも良いねって言ってもらえるくらい大きな魅力です。だから日帰りだけでなく、泊まって夜も楽しんでもらえるようにしたい。そのために公共交通の利便性を高めたり、ホテルの整備を進めたりと、行政としてできることに取り組んでいきます。最近は町屋を改装したホテルもできていますし、今後も宿泊環境の充実を計画しています。

Q. 八女市の一番の魅力は？

八女の隠れた魅力は、“人のあたたかさ”

宮崎さん とにかく人があったかい！ほんとに魅力的な人が多いです。地元の人たちが自分たちの文化や風土を誇りに思っている感じも、住んでみて気づいた魅力です。

野嶋さん 小学生が自然にあいさつしてくれるのが新鮮でした！近所の方も気さくに声をかけてくれます。

簗原市長 八女の方にとっては当たり前になっていて意識していないようですが、八女以外に住んでる方、来られる方からは八女の人“やさしい”“あったかい”ってよく聞きます。隠れた魅力なのではないかと思っています。深掘りしていきたい要素でもありますね（笑）

市長の想い

これからの八女、どうしていく？

今までは“八女が好きで移住してくる人”が多いと思っていたのですが、今日の話を聞いて、20代30代の方は“仕事がきっかけで八女に来る人”が増えてるんだと気づきました。実は八女には面白い仕事がいっぱいあるし、それをもっと知ってもらえたらと思います。あと、“田舎暮らし”って言葉が広まっていますが、ネガティブなイメージが伝わってることもある。だからこそ、リアルな声——実際に住んでる人の感想を届けることが大切だと感じています。行政としても「住環境」や「子育て」「コミュニティづくり」などのサポートを続けつつ、気軽に話せる場所や、移住者同士のつながりをつくって、“八女っていいよね”って思えるきっかけをこれからもっと増やしていきます。

簗原 悠太郎 35

みのらはら・ゆうたろう | 1990年、福岡県大野城市生まれ。幼少期を星野村で過ごし経済産業省勤務、オランダ留学を経て2024年11月より八女市長に就任。

八女で見つけた、私たちの好きな場所

Our Favorite Places in Yame

市外から八女に移り住んだ方々が、自分らしい暮らしを見つけた場所。
地元の人々との交流や、自然に囲まれた日常のなかで心地よさを感じたスポットなど、
思わず写真に残したくなるちょっとしたお気に入りの場所を紹介します。

養原市長おすすめ



自然を感じながら、
働けるのが魅力



市役所から見える山々に囲まれた景色は、心地よく気分転換になり、穏やかな時間を過ごせる場所としてお気に入りです。



夕方の景色が特に綺麗です。新芽や雪景色など、季節ごとに変わる町並みの表情が楽しめるので、散策のたびに感動があります。



新茶の時期の茶畑は、
本当に感動的な美しさ

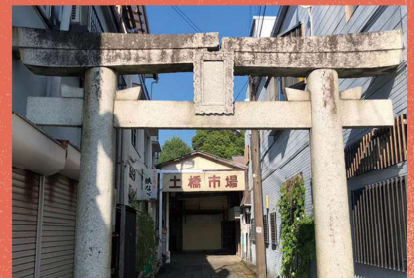
野嶋さんおすすめ



時を超えた町並みを
楽しめるのが醍醐味



宮崎さんおすすめ



土橋市場や市役所近くの古い町並みを歩くのが好きです。歩くたびに新しい発見がありますし、友人を案内することも多いです。